

第 17 回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

会議の名称：第 17 回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成 23 年 8 月 31 日 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分

開催の場所：知事公邸 第 2 応接室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり（産技センターは 3 から出席）

会議の概要：以下のとおり

1. 業務実績評価（平成 22 年度）の決定について

審議結果

資料 1 に基づき、平成 22 年度評価案について事務局より説明し、原案どおり、委員了承。

主な意見

委員	主な意見	対応
副井委員	・皆さんからいただいた意見を、全体に筋が通るように表現を変えたところもあるが、大体入れていると思う。	
副井委員	・一番最後のところに、「さらなるインセンティブが働く」という言葉があるが、今もある程度やっているが、それにもっと特別な貢献をしたような人はもう少し考えたらどうでしょうという検討を期待しますということ。	
辻委員	・結局、ずっと始まってから 3 と 7 で、1 回も変わったことはなかったのか。	・資料 2 の最後の 9 ページの真ん中で、各年度の全体評価はすべて 3。ただ、その下の項目別評価加重平均や単純平均したものは上がっている。（事務局）
副井委員	・（加重平均や単純平均は）着実に上がっている。しかし、第 2 期では、なかなかそこから先の努力が難しいところ。	
谷口委員	・理事長は、今、一生懸命やっていると思う。	
副井委員	・3 ということは、剰余金などのときも必要な部分は残すことができるということか。だから 2 とか低い評価を出すと、なかなか剰余金なども残すことができないということか。	・そうである。（事務局）
副井委員	・5 段階評価で 3 だが、結構 4 にしてもいいかなという 3 である。	
各委員	・意見が反映されているし、まとまっていてとてもよい。	

2. 業務実績評価（第1期中期目標期間評価）の決定について

審議結果

資料2に基づき、第1期中期目標期間評価案について事務局より説明し、原案どおり、委員了承。

主な意見

委員	主な意見	対応
副井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(2) 今後の課題の「見える化」の部分をどういうふうを書くかということでは、現実問題として、努力目標にして具体論となると結構難しいところはあるが、できるだけ成果が見える形にしてみようということ、入れることは意義がある。具体論として(3) 今後センターが取り組む方向性の改善事項の中には記入しなかったということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。(事務局)
副井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の3というのは、おおむね計画どおりに業務が進捗しているという意味で、5段階評価の真ん中にはなるが、特段悪いということではなく、評価としてはいい評価だと思う。 ただ、産技センター側から見たら、これだけ努力しているのに3かということになるかもわからないが。 	
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、22年度評価で、その特筆すべき主な実績14件の成果に対する目標は3件だったので、3件は少な過ぎるところがあるので、目標を低くし過ぎないことは大事ではないかと思う。 	
副井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の立て方とか、中身の問題となってくるが、鳥取県の産業にどういうインパクトを与えたかとか、他県との比較で、こういう点で鳥取は特徴を出したということを見える化するのなかなか難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいかもしれないが、経験則として、例えば氷温などはまさにそれだった。氷温というのは一つの産業として成立したわけだから、あれが一番インパクトがあった。(事務局)
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・産技センターの職員の携わった技術開発が終わってしまったら、その後どうなったかもフォローしないと、この実績報告書に出てこない可能性もある。だから、意識として、その後どうなったかということセンターの職員にもずっと追跡したい気持ちになってほしい。 	
谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ある大学が新しいことを具現化するために一緒に取り組んでくれないかと来てくれた。大学でもそこまで売り込みに来るので、そういうことをセンターもやるべきではないかと思う。 	

辻委員	・相当テーマを絞り込んで、各研究所1個でいいから、これはだれもやっていないというテーマを見つけて、そこにだけに集中してやるのが大事ではないか。	
副井委員	・全体として、法人化したことによって、やはり緊張感が生まれて、皆さん努力しているように見受けられるが、そういう点では、まだ途上ではあるが、法人化していい方向に進んでいるのかなと思う。	
辻委員	・意識改革が進んできているような感じを受ける。 ・初年度のころの数値目標には自信のなさが物すごくにじみ出ていたような感じを受けるが、4年たって、そのときよりはある程度自信がついてきたのではないかという感じがする。	
谷口委員	・私どもの意見も存分に入っている。	

産業技術センターへの評価結果報告の概要

委員	主な意見	対応
		・全体評価の(3)「今後センターが取り組む方向性・改善事項」が評価委員会の指摘事項ということで、来年度の評価の際に措置状況等についてセンターより報告していただくこととする。(事務局)
副井委員	・細かい字句等について、センター側から見たらいろいろ御意見があるところかもしれないが、私どもとしても精いっぱいセンターが地方独立行政法人としていい方向に活動していただきたいということで評価をまとめさせていただいた。	

3. 財務諸表の承認に係る意見聴取について

資料3に基づき、説明。特に委員より意見はなく、委員了承。

4. 中期目標期間最後の事業年度の剰余金処分案に係る意見聴取について

資料4に基づき、事務局案を説明し、委員了承。

委員	主な意見	対応
谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の定数が57名でそれに満たなかったから返すということだが、例えば目標の数値というのは57名をベースに考えられた数字ではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・57名というのは、県政を推進するために必要な定数ということで出している。その定数の中でマンパワーを發揮して数値目標を設定していただくというのが基本。(事務局) ・募集して必ず採用するというものではなかったという状況もあった。(産技センター) ・機器利用等の収入を財源として技術スタッフを雇ったりということは対応している。(産技センター)

5. その他

次回(第18回)評価委員会について

10月以降開催し、評価方法の見直しについて検討を行う。

企業訪問について

企業訪問について、事務局で設定する。

委員	主な意見	対応
		<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ委員の皆さんには、県内の地元でがんばっておられる中小零細企業をたくさん訪問していただきたい。(産技センター)
副井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・時間とチャンスがあれば訪問させていただきたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小零細企業にこだわらずその先の彼らがつながっている大手企業の戦略も見なければと思っており、ぜひそういう機会を作りたい。(事務局)

産技センターの確認事項等について

委員	主な意見	対応
		<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の評価については、資料8にも示されているとおり、今、進んでいる中期目標に全て入っているということで理解している。来年は、これに沿った形で報告させていただこうと思っている。(産技センター)

第17回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長顧問
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	辻 智子	日本水産株式会社	生活機能科学研究所長
委員	房安 寿美枝	いなば和紙協業組合	総務部部长

【地方独立行政法人】

氏名	役職名
山本 誠	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部長
山田 強	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画室長
石破 徹	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画室長補佐
蔵内 康夫	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部総務室長補佐

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
岡村 整諮	商工労働部産業振興総室長
山下 喜夫	商工労働部産業振興総室産学金官連携室長
富山 哲明	商工労働部産業振興総室産学金官連携室副主幹